



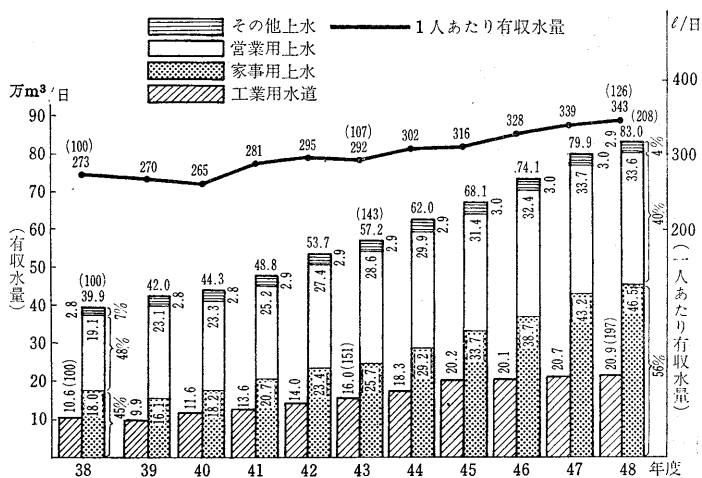
横浜の一〇年

12 水道

水道使用量は二倍に

昭和三十八年度から一〇年間に上水道使用量は二倍に増え、特に家事用の使用量の伸びがめざましく、営業用の伸びを上回り、四十八年度には、全使用量の五六%に達している(図-59)。現在横浜の水道の水は、道志川・相模湖・馬入川から取水され、川井・鶴ヶ峰・西谷・小雀の各浄水場を経て、各家庭へ送られている(図-60・61)。また四十九年度からは、新たに神奈川県内広域水道企業団によって、酒匂川の水が横浜に入ってきている。しかし、今後とも増え続ける水需要をまかなうために、宮ヶ瀬ダムの建設、県外からの取水も、考えなければならぬ(図-62)。一方、水の使用量の多くを占める家庭での水使用の節約や大口需要者である工場・事業所に対する水の循環利用による節水を求めたり、下水処理水の再利用・海水の淡水化等、貴重な水資源の高度利用の検討が進められている。

図-59 水道使用量の推移



〔注〕 ① 有収水量とは料金徴収の対象となった水量をいう ② () は昭和38年度を100とした指数 【資料】 水道局



図-60 横浜の水はどこからくるか

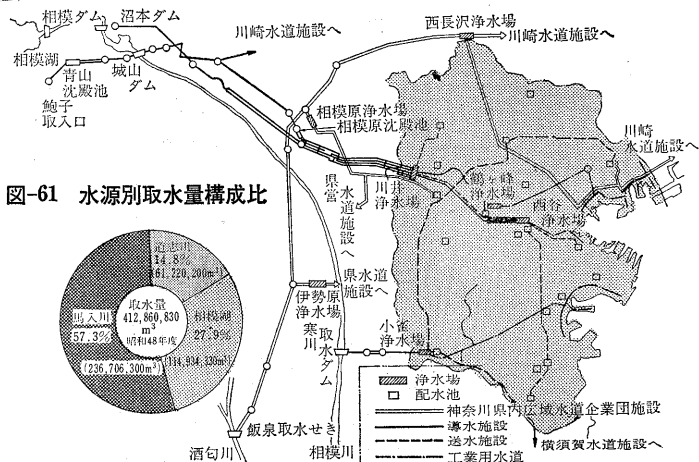
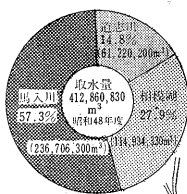
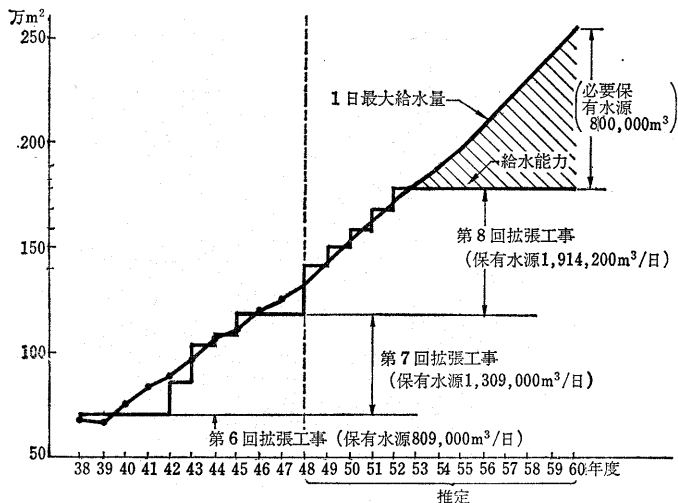


図-61 水源別取水量構成比



〔資料〕 水道局

図-62 水需要の実績と将来の予想



〔資料〕 水道局